

令和8年度 学校評価計画書

							石川県立飯田高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
1 主体的・対話的で深い学びにより、知識・技能、思考力・判断力・表現力を育成する。	① 習熟度別の学習指導を推進し、個に応じた学力の伸長を図る。	各教科 各学年 進路指導課	習熟度別学習指導の効果は、中・下位層には見られるが、上位層にまでは至っていない。	【 成果指標 】 各習熟度において学力が伸長している。	模擬試験受験者の英数国総合偏差値で60以上10%、55以上20%、50以上50%の3つの項目のうち A: 全て達成 B: 2つ達成 C: 1つ達成 D: 達成なし	C以下の場合は、学年及び教科で指導体制を検討する。	1・2年は7、1月、3年は6、10月の模擬試験で評価	
	② 予習・授業・復習のサイクルを確立し、自律的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学習意欲の高い生徒も一定数いるものの、全体としては学習習慣の定着には至っていない。	【 成果指標 】 学習サイクルが定着し、授業外学習時間が増加している。	毎日の家庭時間調査において、授業外での学習時間の平均が、学年+1時間を100と換算したとき A: 70以上 B: 60以上 C: 50以上 D: 50未満	C以下の場合は、学年及び教科で指導体制を検討する。	classi家庭学習時間の平均値で評価	
	③ 就職・公務員志願者に対して、幅広い知識と情報処理能力を育成する。	各教科 進路指導課	特定分野で学力が未定着の生徒が見られ、分野ごと対策が必要である。	【 成果指標 】 個々が苦手分野を克服し、学力が伸張している。	就職・公務員模試でのBランク以上の生徒の割合が A: 60%以上 B: 40%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	C以下の場合は、進路指導課及び各教科で取り組みを検討する。	各模試で評価	
	④ 総合的な探究の時間において協働的な学びを展開し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	教務課 ゆめかな (総合的な探究の時間) 担当	ゆめかなプロジェクトと題した探究学習に多くの生徒が前向きに取り組んではいるものの、自分自身や自分たちの地域にとって切実な問いを立てて探究できているとは言い難い。	【 成果指標 】 総合的な探究の時間(ゆめかな)の学びを通じて、1年生が、地域のさまざまな課題に対する当事者意識を持てるようになっている。	「これまでのゆめかな学習を通して、地域課題に対する当事者意識が高まったかどうか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	C以下の場合は、取組を見直す。	年2回(10月・3月)の生徒アンケートで評価	
	⑤ 科目担当との連携や委員会活動を通して、生徒が本を読む機会を増やす。	総務課	ブックトークの活動や図書館だよりの発行を行い、昨年度は図書室の利用率が上昇した。しかし、図書室を利用する生徒は一部の生徒に限られている。 (R6利用率38.2% R7利用率60.7%)	【 成果指標 】 図書室主催のイベントや探究学習などを通じて図書室の利用率が上昇している。	図書室主催のイベントや探究学習などを通じて図書室の年間利用率が A: 60%以上 B: 55%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	C以下の場合は、運営方法を見直す。	図書室のデータから%を算出	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 効果的なICT機器の活用法を研究し、各教員の授業力を向上させると共に、そのノウハウの共有によって学校全体の教育力を高める。	① GIGA校内研修年間計画に基づいて研修を進める。	GIGA校内研修推進リーダー	生徒1人1台端末による授業の取組が始まったが、まだ授業への活用に消極的な教員がいる。	【 努力指標 】 教員が1人1台端末を活用した授業が出来る。	授業で年間15回以上1人1台端末を用いた授業をした教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価
	② 教科・科目に対する興味・関心を高めるために、授業におけるICT機器の利用を工夫する。	教務課	授業内でのICT機器活用は当たり前になっているが、それが教科・科目に対する興味・関心の高まりにつながっているかどうかは分からない。	【 満足度指標 】 ICT機器を効果的に活用した授業によって、生徒の教科・科目に対する興味・関心が高まっている。	「ICTの活用により、この科目に対する興味・関心が高まった」の問いに対して「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	年2回(7月・12月)の生徒アンケートで評価
	③ 校務の効率化や授業改善のために、Classiやロイロノートなどさまざまなアプリを効果的に活用する。	教務課	さまざまなアプリケーションが導入されているものの、現状の使い方にとどまってしまうケースが多い。	【 満足度指標 】 教員が、昨年度に比べて、Classiやロイロノートなどさまざまなアプリをより上手く活用できるようになる。	「昨年度に比べて、Classiやロイロノートなどさまざまなアプリをより上手く活用できるようになったかどうか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた教員の割合が A: 90%以上 B: 70%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
3 学校行事や部活動、ゆめかな等の活動を通して地元中学校や地域社会と連携し、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を育む。	① HR活動や委員会活動を通して、集団における人間力を育む。	生徒指導課 全職員	災害復興中で活動に制限がある中で、生徒会を中心に工夫を凝らして学校行事を運営している。今後、さらに活発な意見交換ができるかが重要である。	【 成果指標 】 生徒間で十分な意見交換を行い、組織的に取り組んでいる。	「意見交換を行い、協働した取り組みが日常的にできた」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
	② 総合的な探究の時間の学習を通して、外部伴走者や地域社会と協働して課題解決へと向かう人材を育成する。	教務課 ゆめかな (総合的な探究の時間)担当	大部分の生徒が「総合的な探究の時間」の学びに前向きであるが、外部との関わりという観点では消極的な様子がみられる生徒が多い。	【 成果指標 】 生徒たちが外部の方々と協働しながら探究学習を進めている。	外部伴走者と共に探究学習を行った生徒(2・3年生)の割合が A : 80%以上 B : 60%以上 C : 40%以上 D : 40%未満	C以下の場合は担当教員間で指導体制を検討する。	授業内で使用する記録シートで評価。
	③ 地元産業に貢献する人材育成のため企業見学会や講演会を実施する。	進路指導課	地元企業に対する知識が不足しており、卒業直後だけでなく、進学後も地元就職を希望する生徒が少ない。	【 成果指標 】 地元企業への理解を深め、地元への貢献意欲が高まっている。	「地元への興味・関心や貢献意欲が高まった」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた生徒が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C以下の場合は指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケート(2年ビジネスコース対象)で評価
	④ 挨拶、身だしなみ、交通ルール遵守など、社会生活の基盤を身に付ける。また、生徒一人一人が「いじめのない学校づくり」を心がける。	生徒指導課 全職員	挨拶ができる生徒の割合は高く、身だしなみに関して指導を受ける生徒もほとんどいない。学校行事などでいじめのない学校づくりに取り組んでいる。	【 成果指標 】 集団生活における規律を遵守し、人間力が向上している。	「集団や個々の場面でも、いじめのない学校づくりを意識して規則や規律を守ることができた」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(7月・1月)の生徒アンケートで評価
	⑤ ボランティア活動や地域行事への参加を積極的に進め、地域社会の一員として人間力を育む。	生徒会係	令和6年能登半島地震により限定的な地域行事もある中で、若い力が求められるようになっている。地域行事への参加などによるボランティア活動に参加してほしい。	【 成果指標 】 学校行事や地域行事に積極的に参加できている。	「地域行事やボランティア活動を通して、地域に関わろうとする意欲が高まった」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(9月・1月)の生徒アンケートで評価
	⑥ 地域学や観光ビジネスなどの授業、珠洲の実商店の出店を通して、地域社会との連携を深め、ふるさとへの愛情を深めるとともに異世代との交流を持つことでコミュニケーション能力を育てる。	ビジネスコース	地域の高齢化によって縮小されて行事や、震災によって行わなくなった行事などがある。ボランティアの手によっていろいろな催し物が行われるようになっていっているので、少しずつでも参加できるような行事を探し交流していきたい。	【 成果指標 】 地域学や観光ビジネスの授業、地域で開催される行事に参加し、地域への理解を深めるとともに、コミュニケーション能力を育むことができる。	「地域への理解を深めコミュニケーション能力を育むことができた」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年2回(9月・1月)の生徒アンケートで評価

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 教職員自らが効率的な業務や指導法の改善に努め、ワークライフバランスを実現する。	① 若手教員早期育成プログラムの推進と併せ、研究授業や互見授業により授業改善を図る。	若プロ担当	若手教員の割合が高く、生徒の進路実現に向けた授業力向上が求められる。	【 成果指標 】 様々な校内研修を通じて、石川県教員育成指標に基づいた資質・能力が身につけている。	「石川県教員育成指標の各ステージの資質・能力を身につけることができた」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた教員の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	C以下の場合、指導方法を見直す。	年間2回(9月・1月)の教員アンケートで評価
	② 授業改善アンケートの結果をもとに授業改善を図り、生徒の確かな学力を涵養する授業を展開する。	各教科 教務課	学力の二極化が進み、習熟度別学習指導はもとより授業力の改善が求められている。	【 満足度指標 】 多くの生徒が、授業を通じて学びの意欲が高まると実感している。	「授業を受けて、学ぶ意欲が高まったか」の問いに対して「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	生徒による授業改善アンケート(年2回実施)で評価
	③ 研修などを通してカウンセリングマインドを涵養し、多様な生徒への指導力を高める。	保健厚生課	学習や人間関係に不安を感じ、教室に入れなかったり不登校となる生徒が増加している。	【 努力指標 】 研修会で得た生徒理解のための知識や方法を実践しようとしている。	「研修会で得た知識や方法などを、授業や部活動、特別活動や面談等で実践した」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答えた教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	研修会後のアンケートで評価
	④ 業務遂行の効率化を進めるとともに、定時退校日や部活動の休業日を活用して、教職員のワークライフバランスの実現を図る。	保健厚生課	昨年度は、時間外勤務が80時間を超える教職員の割合が14%程度であった。	【 努力指標 】 時間外勤務が80時間を超える教職員がいない。	時間外勤務が80時間を超える教職員の割合が A: 10%未満 B: 12%未満 C: 14%未満 D: 14%以上	C以下の場合 は取組を見直す。	勤務時間調査で評価